

一、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(七〇点)

政治学や法学、あるいは経済学といった学問が生まれる前に、人びとの暮らしの営みがあった。技術とか技能とかいうことばが生まれるずっと前から、人びとは暮らしのなかでさまざまなものづくりの工夫を重ねてきた。

工夫を重ねるうちに、ものづくりをする専門職が生まれて、職人と呼ばれるようになった。鍛冶^{かじ}職人がいて大工職人がいる。機織り職人もいれば染色職人もいるし、さまざまな料理を作る職人もいる。「Ⅰ」という人間生活の基本から、近代産業の先端まで、さまざまなものづくりの場に職人は実在している。宇宙衛星や原子力発電のような、「Ⅱ」と呼ばれる機械の重要な部品を作る職人もいる。

むろん現在のように大変進歩した設備を持った工場の現場でもものづくりする人たちの呼称は、旋盤工、溶接工、仕上工というように工がつく場合が多い。わたしは、[※]旋盤^{せんぱん}という機械を使って五十年余り働いてきた旋盤工である。工は、わざやたくみを意味するが、旋盤のあとにつく工は、ものづくりすることを職業とするたくみ(人)を表すことばとして使われている。

現場でもものづくりする旋盤工や溶接工、仕上工たちを技能者あるいは技能工、技能士と呼ぶのは、多くの職場で一般化している。さまざまな職種に技能士の国家検定制度があって、たとえば機械組立技能士一級とか、旋盤技能士二級というように呼ばれている。

これらの資格制度が、本人の目標や^aハゲみになり、職場の技能^α向上に役立つことから、会社ぐるみでこの

制度の活用に力を入れている例は多い。一級なら月に一万円、二級で五千円の手当を支給するといった会社もある。それに加えて、各企業が独自の制度を作って、企業名をカン^bした〇〇〇マイスターといった資格を与える例も増えた。戦前からの呼称である工師とか、師匠、範師という名の資格などがそれである。

一九九〇年代に入って、日本の産業が、大量生産、大量消費を前提としたものづくりから、多品種少量生産に移行するにつれて、機械設備だけに頼っていらなくなつて、熟練技能者が見直されたことが、その背景にある。それはとりもなおさず、機械設備に頼つてもものづくりを進めてきた結果^β、熟練技能者を育てることを怠っていたことの証しでもあった。

とりわけ一九八〇年代以降、マイクロ・エレクトロニクス技術の普及^Bによつて、もはや熟練技能などは不要のものになるだろうという、誤った予測が、ものづくりの世界でシハイ^c的になったことによつている。多くの工場で、機械の前で立ち働いているのは、たくみを意味する機械工ではなく、機械要員となった。回転寿司の店で働くのは寿司職人ではなく、単なる店番となつてしまった姿と重なる。家を建てるのが大工職人ではなく、工場で機械加工された木材をプラモデルを組むように組み立てるだけの下働きに変わったのとも似ている。^④

技術が進歩すれば技能は要らなくなる、と考えるのは誤りである。もしもそう考える技術者がいるなら、それは技術者の奢^{おし}りである。^④技能よりも技術のほう^⑤が上だと考えるのも、技術者の奢りである。

以前、地球資源衛星第一号にトウサイ^dされた送信用のアンテナを作った日立製作所の、宇宙技術推進本部の技術者扇祐和さんに、いろいろとお話を伺ったことがある。

宇宙衛星が飛ぶ宇宙には、ロケットの破片などのゴミの他にもさまざま、電気を帯びた素粒子や電子といった粒子が飛びかっているという。ゴミにぶつかれば衛星がハソン^eすることもあるが、衛星の金属部分に電気を帯びた粒子が当たって、電気がたまると、衛星のなかで雷のような放電現象がおきてしまう。そのため、アンテナの一次放射器の中心に、金属ドウタイ^fと呼ばれる帯電防止用の直径〇・一八ミリのワイヤー（針金）を通すという作業が必要となった。

扇さんは、宇宙衛星のことなどチンパンカンパン^cなわたしに、写真や絵を見せながら、傘を逆さにしたようなアンテナの形にたどりつくまでの設計の苦労話を語ったあと、

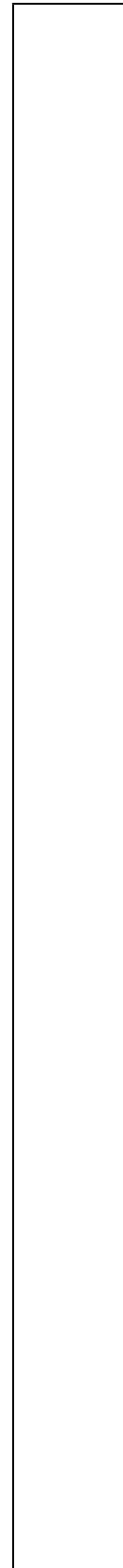
「でも、この金属のワイヤーを通す作業は、日立製作所広しといえども、たったひとり、この組立工にしかできません」

作業服姿の男性が、ちゅういし 中腰に構えて仕事をしている写真をわたしに見せて、扇さんは続けた。

「この細長い穴の中心に、正確に、一定の強さにワイヤーを張ってコテイ^gする。ことばにすればそれだけのことですが、誰にでもできるということではないのです。大変な熟練を必要とするのです。もしもこの作業ができなかったら、わたしたちがどんなに立派な設計をしても、モノにはならないのです」

⑥ h いかにも技術者らしく飾らぬクチヨウ^hで、扇さんはそう語ってから、笑いながらまた続けた。

「わたしがなにかの理由で、明日辞表を提出したって、誰も留めてはくれませんが、仮にこの方が辞めるなんて言ったら、札束を積んでも引き留めるでしょうね。日立関連八万人の従業員のなかでも、代わりがとまらない、ごく少数の技能者⑦なんですよ」



(小関智弘『職人学』より)

※旋盤^{せんぱん}… 工作物を主軸に固定して回転させ、往復台上にある刃物を前後左右に動かし、工作物を軸対称状に切削する工作機械。

問一 〓線部 a s h のカタカナをそれぞれ漢字に改めなさい。

問二 ……線部 α 、 β の語句の対義語をそれぞれ二字の熟語で答えなさい。

問三 ……線部 A、B の語句の意味として適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A とりもなおさず

B 普及

ア どちらにしても
イ 言い換えると
ウ 後先を考えず
エ 間違いなく

ア 再び力を発揮すること
イ 極度に発達すること
ウ 広くゆきわたること
エ もとの状態にもどること

問四 ……線部 C 「チンプンカンプンな」とはどういうことですか。十字以内の言葉で言い換えなさい。

問五 「I」・「II」に入る語句を、「I」は漢字三字の熟語で、「II」はカタカナ四字でそれぞれ答えなさい。

問六 〓線部①「旋盤のあとにつく工は、ものづくりすることを職業とするたくみ（人）を表すことばとして使われている」について、ここから筆者のどのような気持ちが読み取れますか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 人生を振り返って、旋盤という機械を使う仕事を続けてきたことに対する悔恨。
- イ 五十年余りもの長い年月の中で、旋盤という機械の改良に携わってきた者としての自信。
- ウ 進歩した工場設備の中で、旋盤という機械を使い続けてきたことに対する誇り。
- エ 長い年月の中で旋盤という機械を使い、ものづくりをしてきた者としての自負。

問七 — 線部②「その背景にある」について、

- 1 「その」とはどのようなことを指していますか。文章中の言葉を使ってまとめなさい。
- 2 「その背景にある」ものを文章中から十五字以内で抜き出しなさい。
- 3 「その背景にある」ものと正反対の関係にあるものを文章中から三十字以内で抜き出しなさい。

問八 — 線部③「木材をプラモデルを組むように組み立てる」で使われている比喩の種類を漢字で答えなさい。

問九 ~~~~~線部「日立製作所の、宇宙技術推進本部の技術者扇祐和さん」に伺った話の中で、——線部④「技能」を具体的に示したものを十五字以内で、——線部⑤「技術」を具体的に示したものを三十字以内でそれぞれ抜き出しなさい。

問一〇 文章全体の内容を押さえて、筆者の考える——線部⑥「技術者」・⑦「技能者」の違いをはっきりとさせて、それぞれがどういう人なのかを説明しなさい。

問一一 文章の最後にある に入る段落として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 技術を身につけることも技能を身につけることもモノの存在には欠かせない。特に技術については今後の社会で更に求められていくことになる。
- イ 技術者がどんなすぐれた設計をしても、それだけではモノにならない。モノとして存在するためには、技能者の持つ力量が不可欠である。
- ウ 技能者の熟練には最大の保障をしていかなければならない。技術者を守ることより技能者を守ることが今後の社会には必要である。
- エ 技術者の行う設計はモノの完成にはさほど影響はない。モノとしての存在には技能者の熟練が必要不可欠なのである。

二、次の各問いに答えなさい。(三〇点)

問一 次の①～⑤の語句の意味として正しいものをア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 流れに掉^{さお}さす

ア 勢いに負けないよう踏ん張る。 イ 自分の思いを我慢する。
ウ 物事が思いどおりに進行する。 エ 皆の意見に流されない。

② 気が置けない人

ア 気を遣う人。 イ 気を遣わない人。
ウ 気の許せない人。 エ 油断できない人。

③ 腹の皮がよじれる

ア まずくて食べられない。 イ おおいに笑う。
ウ 空腹でたまらない。 エ 怒りをこらえる。

④ 紅一点

ア 美しく着飾ること。 イ 最後の仕上げをして、仕事を完成させること。
ウ 春になり、一番初めに花が開くこと。 エ 大勢の男性の中に女性が一人いること。

⑤ 背水の陣

ア 失敗を予想し、恐る恐る事に当たること。 イ 成否にこだわらず淡々と事に当たること。
ウ 決死の覚悟で事に当たること。 エ 成功を確信し、余裕ある態度で事に当たること。

29. 進美. 国

問 二 次の①～③について、二字熟語の□に共通してあてはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

① 〔真□ 白□ □食 □夜〕

② 〔機□ □想 結□ □成〕

③ 〔要□ 元□ □敵 □人〕

問 三 次の①～③について、□に当てはまる漢字を書き、四字熟語を完成させなさい。

- ① 五里□中 ② 理路□然 ③ 用意□到

問 四 ——— 線部ア〜エの中から、他の三つと文法上異なるものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

①
 ア 彼から手紙をもらった。
 ウ キのう成田から出発した。
 イ それは今から十年前の話だ。
 エ 今お金がないから払えない。

②
 ア 顔は美しいが心は冷たい。
 ウ 色がとてもきれいだ。
 イ 歌はへただが絵はうまい。
 エ 帰りたいが帰れない。

③
 ア 私は本を読んでいる。
 ウ 紙で人形を作る。
 イ 東京まで飛行機で行く。
 エ 公園で弁当を食べる。

④
 ア あなたか私が行く。
 ウ 何年ぶりにかで彼に会った。
 イ どこからか音が聞こえる。
 エ 玄関に誰か来たらしい。

問題は以上で終了です。

受験番号		氏名		採点	
------	--	----	--	----	--

一	問一	a	(み)	b	c	d						
		e		f		g	h					
	問二	α		β		A	B	I	II			
		問三								問四	問五	問六
	問七	1		2		3	1	2	3			
		問八								問九	問一〇	問一一
		④								⑤	①	②

二	問一	①	②	③	④
		⑤			
	問二	①	②	③	
	問三	①	②	③	
問四	①	②	③	④	

受験番号		氏名		採点	
------	--	----	--	----	--

一	問一	a	励 (み)	b	冠	c	支配	d	搭載																																													
		e	破損	f	導体	g	固定	h	口調																																													
	問二	α	低下	問三	A	イ	問四	全くと理解できていない																																														
		β	原因		B	ウ		問五	I	衣食住	問六	エ			II	ハイテク	問七	1	さまざまな職種に技能士の資格制度があること。				問八	直喩			2	熟練技能者が見直されたこと				3	もはや熟練技能なぞは不要のもの になるだろうといいう、誤った予測				問九	④	金属のワイヤーを通す作業			問一〇	⑥「技術者」は、ものづくりにおける機械設備や技術開発に携わる人で、 ⑦「技能者」は、現場でものづくりする作業の熟練を積み重ねていった人。				⑤	傘を逆さにしたようなアンテナの			形にたどりつくまでの設計			問一一
	問五	I	衣食住	問六	エ																																																	
		II	ハイテク		問七	1	さまざまな職種に技能士の資格制度があること。																																															
	問八	直喩				2	熟練技能者が見直されたこと																																															
		3	もはや熟練技能なぞは不要のもの になるだろうといいう、誤った予測																																																			
	問九	④	金属のワイヤーを通す作業			問一〇	⑥「技術者」は、ものづくりにおける機械設備や技術開発に携わる人で、 ⑦「技能者」は、現場でものづくりする作業の熟練を積み重ねていった人。																																															
		⑤	傘を逆さにしたようなアンテナの																																																			
形にたどりつくまでの設計																																																						
問一一	イ																																																					

二	問一	①	ウ	②	イ	③	イ	④	エ
		⑤	ウ	問二	②	構	③	素	
	①	屋	問三		②	整	③	周	
	①	霧		問四	②	ウ	③	ア	④